

## こ だ ま

第164号 2008年 1月31日

先生のお手許に置く必要のなくなったものから順次、寄贈いただいております、今後も研究の節目ごとに図書・資料を御寄贈いただくことになっています。宮本文庫はいわば成長しつづける文庫なのである。

宮本文庫の図書は、大学内外のすべての人に

開放されている。近い将来刊行されるであろう『宮本憲一収集資料』とあわせ、宮本先生の研究の足跡にふれるとともに、宮本理論を受け継ぎ発展させるために、また公害問題、環境問題などの解決に役立てるために、ぜひ積極的にご利用いただきたい。



宮本文庫開設記念シンポジウムで  
学長からの感謝状を贈られる宮本氏  
贈呈者は鹿島正裕図書館長



中央図書館地階書庫に  
配架済みの宮本文庫

〔図書館注〕 宮本文庫は地階書庫に配架されています。学内蔵書検索（OPAC）では、所在が「図宮本文庫」と表示されます。

## 図書館総合展に参加して

2007年11月7日から9日まで横浜で行われた図書館総合展に参加しました。3日目のDRF（デジタル・リポジトリ・フェデレーション）ワークショップ「日本の機関リポジトリ2007」では会場を埋め尽くす参加者の中、第1部基調講演「機関リポジトリの将来像を考える」、第2部DRF参加大学による事例報告、第3パネルディスカッションという構成で機関リポジトリの現状、そしてこれからの課題が報告、議論されました。

第2部の事例報告では、寸劇というユニークなスタイルで機関リポジトリに関する事例が紹介されました。金沢大学からの参加者も役者又は裏方として参加したのですが「機関リポジトリ」という一般にはなじみにくい内容にも拘わらず、寸劇というスタイルをとることによって、

明るい雰囲気の中、聴衆にも理解しやすいものになっていました。機関リポジトリに限らず「図書館の活動を学内に広くアピールする」ということの重要性はこれから益々高まっていくのではないかと思います。寸劇を見て「図書館員のお遊び」と思われた人も中にはいたかもしれませんが、プレゼンテーションの一例としての今回の寸劇は参考にすべき点がたくさんあると感じました。

今回の図書館総合展に参加して、自分が（勉強不足で）知らない図書館をめぐる状況やトレンドを垣間見ることができました。少しでも日々の業務に活かせればと思います。

情報企画課コンテンツ第一係

伊藤 美和